

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査

4月に3学年全員を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の調査結果について、概要をお知らせいたします。

## 教科別学習状況の結果について

国語、数学、理科の全教科において、県・全国の平均正答率を上回っていました。全教科のほとんどの分類（学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式）でも県・全国の正答率を上回っていました。しかし、一部の分類で課題が見られたので、今後の指導に生かしていきたいと考えています。

### 国語

「言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項」、「話す・聞く、書く、読むこと」のすべての領域において、県・全国の平均正答率を上回っています。また、観点別でも、「知識・技能」は72.8%（全国平均69.0%）、「思考・判断・表現」は68.7%（全国平均62.3%）と、良好な結果となっています。今後も、文章を丁寧に読み取り、さまざまな形式の問題演習に取り組むことで、応用力を高める授業となるよう工夫していきたいと思えます。

### 数学

「数と式、図形、資料の活用」の領域で、県・全国の平均正答率を7~11ポイント上回っています。観点別では、「知識・技能」が66.5%（全国平均61.1%）という結果になり、基本的な知識と計算の技能が身につけていることがわかります。「思考・判断・表現」についても45.1%（全国平均36.2%）と良好な結果になっています。わずかながら「図形」の領域で、県・全国の平均正答率が下回りました。教科書の内容をしっかりと学習したうえで、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるように、授業の中でも意識していきます。

### 理科

「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする領域すべてで、県・全国の平均正答率を上回っています。中でも「粒子」を柱とする領域では、約10%上回りました。観点別でも、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに県・全国を約5%上回り、基本的な知識や実験の操作、考察する力が身につけていることがわかります。これからも基本的な知識の定着を図りつつ、難しい問題に取り組む時間も増やした授業を展開し、さらに応用力を高めていきます。

## 生活習慣・学習習慣の調査結果について

多くの項目は全国とほぼ同じ傾向でしたが、その中で、比較的差があったものをいくつかとりあげます。

質問項目	旭中	全国平均
自分には、よいところがあると思えますか (1の割合)	41.5%	36%
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか (1の割合)	20.7%	36.8%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (1の割合)	42.7%	32.5%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか (1の割合)	18.3%	31.4%

(1.当てはまる 2.どちらかといえば当てはまる 3.どちらかといえば当てはまらない 4.当てはまらない)

\*自分のよさや強みを理解している人が多いことがわかります。困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると思う人が多いようです。今後も引き続き、生徒の心に寄り添った指導や支援を心がけていきます。『自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか』『自分と違う意見について考えることは楽しいと思えますか』という質問の選択肢を1と選ぶ生徒が少なかったです。前向きな取組ができるよう、主体的・対話的な学習活動にさらに力を入れていきます。